

凡 例

: 計画地

: 予測地域 (供用時) 半径 5 km

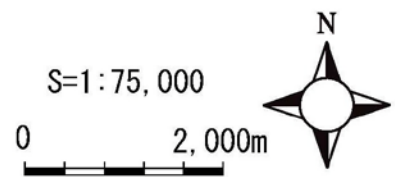


図 10-1-14 予測地域 (供用時)

5) 予測条件

① 気象条件

「10-1-1 建設機械の稼働に伴う大気質への影響」と同様とした。ただし、集計は24時間を対象とした。

② 発生源諸元

発電所からの排出ガス量及び汚染物質排出量等の発生源諸元は、表 10-1-24 に示すとおりである。

表 10-1-24 発生源諸元

項目	排出量
湿り排ガス量(最大)	90850 Nm ³ /h
乾き排ガス量(最大)	75220 Nm ³ /h
排ガス温度	154 °C
酸素濃度	3.7 %
排出ガス吐出速度(通常平均)	22.1 m/s
硫黄酸化物	110 ppm
窒素酸化物	150 ppm
浮遊粒子状物質	0.3 g/m ³ N
塩化水素	103 ppm
ダイオキシン類	0.1 ng-TEQ/m ³ N

③ バックグラウンド濃度

ア. 長期平均濃度予測におけるバックグラウンド濃度

長期平均濃度予測におけるバックグラウンド濃度は、平成24年8月5日～平成25年8月4日までに計画地で測定した現地調査結果に基づき、各季節における期間平均値とし、以下のとおり設定した。

- ・二酸化硫黄：0.0061ppm
- ・二酸化窒素：0.0133ppm
- ・浮遊粒子状物質：0.0111mg/m³
- ・ダイオキシン類：0.0068pg-TEQ/m³

イ. 短期高濃度予測におけるバックグラウンド濃度

短期高濃度予測におけるバックグラウンド濃度は、平成24年8月5日～平成25年8月4日までに計画地で測定した現地調査結果に基づき、各季節における1

時間値の最大値とし、塩化水素については、1時間値の測定を行っていないため、日平均値の最高値の平均値とし、以下のとおり設定した。

- ・二酸化硫黄：0.0124ppm
- ・二酸化窒素：0.0403ppm
- ・浮遊粒子状物質：0.0334mg/m³
- ・塩化水素：0.0050ppm

6) 予測結果

① 長期平均濃度予測

発電所の稼働による二酸化硫黄、二酸化窒素、浮遊粒子状物質及びダイオキシン類の年平均濃度の予測結果は、表 10-1-25 及び図 10-1-15(1)～(4)に示すとおりである。

予測対象とした各汚染物質の最大濃度出現位置は、ともに煙突排出口から西に600mの地点となっており、原地区の集落の南側で集落より地盤が約110m程度高い山地部の斜面であり、予測濃度(年平均値)はそれぞれ二酸化硫黄が0.0082ppm、二酸化窒素が0.0140ppm、浮遊粒子状物質が0.0167mg/m³、ダイオキシン類が0.0099pg-TEQ/m³であった。

図 10-1-15(1)～(4)に示す濃度分布を見ると、笹子川に沿った谷沿いの東西方向に分布が広がっており、これは年間の風向出現方向とほぼ同様の傾向を示しており、発電所から排出された汚染物質は風の影響により拡散し、濃度が薄まっていくと予測される。

表 10-1-25 発電所の稼働による大気質濃度予測結果

予測項目	付加濃度	バックグラウンド濃度	予測濃度(年平均値)
二酸化硫黄 (ppm)	0.0021	0.0061	0.0082
二酸化窒素 (ppm)	0.0007	0.0133	0.0140
浮遊粒子状物質 (mg/m ³)	0.0057	0.0111	0.0167
ダイオキシン類 (pg-TEQ/m ³)	0.0031	0.0068	0.0099

備考：表中の結果は、小数点第四位に丸めたものである。